



入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子

2019年3月1日
No. 14
TEL 46-2655
FAX 46-2654

学校教育目標：命とふるさとを大切にすることの育成

目指す児童像：《一はきはき一 てきぱき一 にこにこ一》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子

心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやみき・あさごほんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

今年度の締めくくりに思うこと

まもなく15名の子供たちが、入谷小学校の卒業生として巣立っていきます。

卒業生に、保護者の皆様に心からお祝いを申し上げますと共に、直接的・間接的に指導・支援にかかわってくださった入谷地区の皆様にも厚く御礼申し上げます。



6年生15名は、卒業式を境にして自立への道をまた一歩大きく踏み出します。卒業式は出口であり、そして入口でもあります。このような節目ともなる卒業式も3月19日に挙行されます。また、他の学年の子供たちも、卒業を祝うための準備や、次の学年への一歩を踏み出せるように、1年間のまとめに取り組んでいます。

進学、進級への大事な残り少ない期間、教育活動の締めくくりに向けて、全職員で充実した指導にあたって参ります。保護者、地域の皆様におかれましても、ご協力・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

『子供たちが輝き 今日が楽しく 明日が待たれる学校』を目指して・・・

さて、「いつもまなぼうとする子」「りりしくたくましい子」「やさしくたすけあう子」は、本校の目指す児童像です。この1年間、子供たちが様々な教育活動に取り組む際、「今の自分を越える、よりよい自分を目指そうー自己ベストー」と話してきました。子供たち一人一人がしっかり目標をもち、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がみられるようになってきました。また、心のこもったあいさつ「立ち止まり・相手の目を見て・あいさつを！」を意識させています。

万葉のころの人々は、使い方によって幸せと不幸せを左右する「言葉のもつ不思議な力：言霊」を信じていたそうです。

現在の私たちの生活の中でも、そのように感じる場合があります。心無い一言で落胆し、もう駄目だと諦めていたときかけられた温かい一言で励まされ、元気になる場合があります。大人に言われた一言で夢をもつことができたという話も聞きます。

今年度の教育活動を振り返り、「その一言」の重みを再確認しながら年度を締めくくり、希望に満ちた新しい年度へつなげていきたいと思えます。



【夢をもたせる一言】

《2月の職員会議で教職員に提示したことばです！》



のことば・・・

『梅一輪 一輪ほどの あたたかさ』



《江戸中期の俳人 はっとりらんせつ 服部嵐雪》

梅の香りが漂い始めると、「梅一輪 一輪ほどの あたたかさ」ということばを思い出します。また、梅の花は同時期に咲く「サザンカ」や「椿」などよりも、さきがけて咲くので別称「さきがけ」とも言われます。梅の木は私たち人間には感じられない、かすかな気温の変化や風の流れを、何よりも早く受け止めて「さきがけて、春の到来を知らせる」のです。まるで一輪一輪の花たちが、周りの微妙な変化を分かる感性の豊かさや誠実で温かい生き方を私たちに教えてくれているように思います。

～さらによりよい入谷小学校の集団づくりをめざして～

梅の花は一つ一つの花びらが互いに寄り添って一輪をつくり、実にほほえましく見えます。その姿を見ると、これまで以上に入谷の子供たちの集団もそうあってほしいと思います。

年度末を迎え、学習のまとめと同時に、学年、学校の集団のまとめの時期でもあります。梅の花一輪一輪の寄り添う様子や寒い中でも微妙な春の暖かさを感じ取る感性の豊かさは、学年や学校の仲間づくりにも大切であることを再確認するよう教職員に伝えました。ご家庭においても、梅の開花にちなみ、自分たちの生活を見直し、さらによりよい集団づくりに努めるように話し合ってみてください。

